

都立三鷹中等教育学校（1年目）

【校長】 小林 正人
【生徒数】 931名
【学級数】 24学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・今年度、一人1台端末を活用した個別最適な学びを保証する授業を目指し、様々な工夫を一部の学年に絞って実施した。来年度は、さらに取組を推進し、主体的に運動に取り組むことができる生徒70%以上を目指す。
- ・卒業後に生涯スポーツとして、運動、スポーツの時間をもちたいと思う生徒が増加するように、多様な運動機会を外部人材と連携しながら各学年に実施していく。

目標 ・主体的に運動やスポーツに親しもうとする生徒の育成
・より活発なコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

【成果】

- 1学年の体育において一人1台端末の活用にかを入れた結果、できるようになった理由を「動画をみた」と回答する生徒が27%から56%に増加した。「授業外に動画をみた」の回答も10%から60%に増加するなど、主体的な運動への取り組みが増えたことがわかる。また、他学年と比べて「友達に教えてもらった」と回答する生徒が64%と多く、生徒同士の交流が活発になった。
- 外部講師を招くことで多様な運動機会の場を設定でき、様々な運動スポーツを体験させることができた。生徒のアンケートからも卒業後も運動に取り組みたいという記述が多数見られた。

【実態・課題】

- ・何事もまじめに取り組む生徒が多い。しかし、主体的に運動に取り組もうとする生徒や教えあい活動が少ない。
⇒一人1台端末を効果的に使用し、生徒の運動への意欲向上や授業中のより活発なコミュニケーション力の向上を図る。
- ・卒業後に運動やスポーツの時間をもちたいかという質問に、「思わない」と答える生徒がいる。⇒多様な運動機会の場を設定し、生徒の運動への興味・関心を高めるための工夫をする。

【取組】

- 保健体育科における一人1台端末の活用
 - ・一人1台端末を活用し、自分の動きを撮影した課題解決学習、グループ学習での振り返りを取り入れた授業実践を行う。Teams等のグループ共有機能のアプリを活用し、生徒との情報共有、生徒同士のコミュニケーションを活発に行った。
- 外部講師による授業
 - ・保健体育の授業にパラアスリートを招へいし、特別授業を実施。
 - ・ダンスの授業において講師による発表会に向けた指導助言を10回実施。
 - ・アルティメットの授業を8回実施。

【取組（詳細）】（写真の枚数は自由）

主体的に運動に取り組み、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

○保健体育科における一人1台端末の活用

【主体的に運動に取り組むための工夫】

- ・剣道、跳び箱、マット運動、ハンドボールで手本動画を配布し、自分の動きを撮影したものと見比べて、自己の課題を発見に役立てた。

【積極的にコミュニケーションをとるための工夫】

- ・バレーボールの試合の様子を生徒の端末で撮影し、映像をTeams内で共有。作戦会議の資料として活用した。
- ・各自の振り返りをTeams共有フォルダに提出させ、他者の意見をいつでも・どこでも確認できるようにした。
- ・ダンスの発表会に向けた活動において、グループの練習計画や予習・復習のための動画をTeams内で共有することで、生徒同士のコミュニケーションが円滑に行えた。



バレーボールの試合を一人1台端末で撮影

○外部講師による授業

- ・1学年の保健体育の授業に、パラ・パワーリフティングの樋口健太郎選手を講師に迎え特別授業を実施した。「将来の夢を考えよう」をテーマにお話をいただいた後、義足体験、体の使い方講座（腕立て伏せ）、競技体験（ベンチプレス）を実施した。



ダンス発表会に向けた練習の中で、各グループに講師からの指導助言

パラ・パワーリフティング
樋口健太郎選手の実演



- ・1学年、3学年の保健体育の創作ダンスの授業で講師を招き、ステップや隊形・動き方の工夫について指導をいただいた。各グループで生徒が主体的にダンスを創り上げる中、講師のアドバイスを活かし作品の完成度を高めた。数回にわたり、講師の授業を行う中で隊形や動きの工夫をしている生徒が多く見られた。授業を受けた生徒の感想の中に、「視線の固定と頭の位置」「頭の位置を変えることでダンスに動きが出ることが分かった」等の新たな学びや発見があったという肯定的な意見が多く見られた。